

論点2

課題を共有するための
課題の明確化について

本日はご審議いただき1つ目の論点
5つの視点の関係性

本日も審議いただく1つ目の論点

第2次答申・方針策定に向けた論点

1 学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)

- 今後、小学校及び中学校の配置や施設形態等のあり方を検討する際の「基本方針(あり方検討の進め方)」を審議し、第2次方針・第2次答申の骨格とする。
- 基本的な考え方：基本方針・視点1・視点3・視点4
- 具体的な論点
 - ① 目的
 - ② 枠組み及び協議検討方式並びに基本とする考え方
 - ③ 検討主体と関係団体や関係者
 - ④ 市及び市教委の立ち位置・姿勢

2 課題を共有するための課題の明確化

- 課題意識の高い学園地域が主体的に検討を開始し、相互理解を深めるための協議を促進する観点から、学校教育面から見る課題を明確にし、検討を進める必要がある学園とその順番を定める。
- 基本的な考え方：基本方針・視点2・視点3・視点5
- 具体的な論点
 - ① 小規模教育の位置付け
 - ② 共有する課題の明確化(協議・検討開始のポイント)
 - ③ 協議・検討を開始する学園
 - ④ 協議・検討の順番

3 学園地域における協議・検討期間及び時期

- 協議・検討の順番を踏まえつつ、学園地域における標準的なボトムアップ・対話方式での協議・検討期間やそれに基づく検討時期を定める。
- 基本的な考え方：基本方針・視点2・視点5
- 具体的な論点
 - ① 学園地域における協議・検討期間及び再編する場合の準備期間の標準形
 - ② ①及び論点2の協議・検討の順番を踏まえた学園毎の検討時期

4 学校施設の形態と位置に関する考え方

- 小中一貫教育を推進する観点から、児童生徒の教育環境を整備する責務を有する市教委として望ましい施設形態を審議し、学園地域における協議・検討の一助とする。
- 基本的な考え方：基本方針・視点1・視点2・視点3
- 具体的な論点
 - ① 小中一貫教育推進、教育行政の持続可能性向上の観点から見た望ましい施設形態
 - ② 学校施設の設置位置(場所)を検討する際の考え方

論点2 | 課題を共有するための課題の明確化

- 課題意識の高い学園地域が主体的に検討を開始し、相互理解を深めるための協議を促進する観点から、学校教育面から見る課題を明確にし、検討を進める必要がある学園とその順番を定める。
- 具体的な協議のポイント

 ポイント① | 小規模教育の位置付け

 ポイント② | 共有する課題の明確化
(協議・検討開始のポイント)

 ポイント③ | 協議・検討を開始する学園

 ポイント④ | 協議・検討の順番



論点2と5つの視点の関係性

— 論点を審議する際に念頭に置き、忘れてはいけない視点を確認するために —

	視点1	視点2	視点3	視点4	視点5
	児童生徒の教育環境の充実を最優先に考える。ただし、学校は地域の将来の担い手や支え手となる人を育てる機能を有していることにも配慮する。	個別の学校の状況だけでなく、学園内の学校全体の状況を考慮する。	保護者や地域の課題意識の高い学園や、安全面で課題があると考えられる学園を対象とする。	具体的なあり方の検討では、保護者、学校教職員、住民の代表者、教育委員会事務局の職員で構成する検討組織を組成し協議を重ねて方向性を定めていく。	教育移住の促進等の児童生徒数の維持・増加に向けた取組を地域をあげて推進することが見込める学園は、その取組の効果を考慮する。
論点1 学校のあり方を検討する際の基本的な考え方(基本方針)	①目的 ②枠組み、協議・検討方式、大切に考える考え方 ③検討主体、関係者 ④市及び市教委の姿勢		①目的 ②枠組み、協議・検討方式、大切に考える考え方	①目的 ③検討主体、関係者 ④市及び市教委の姿勢	①目的
論点2 課題を共有するための課題の明確化		①小規模教育の位置付け ②共有する課題の明確化 ③協議・検討を開始する学園 ④協議・検討の順番	①小規模教育の位置付け ②共有する課題の明確化 ③協議・検討を開始する学園 ④協議・検討の順番		①小規模教育の位置付け ②共有する課題の明確化 ③協議・検討を開始する学園 ④協議・検討の順番
論点3 学園地域における協議・検討期間及び時期	②学園毎の検討時期	①標準的協議・検討期間 ②学園毎の検討時期	①標準的協議・検討期間 ②学園毎の検討時期		②学園毎の検討時期
論点4 学校施設の形態と位置に関する考え方	①望ましい施設形態 ②学校施設の設置位置	①望ましい施設形態 ②学校施設の設置位置	②学校施設の設置位置		

論点2 課題を共有するための課題の明確化

ポイント② 共有する課題の明確化(協議・検討開始のポイント)

学校の学び・教育活動面から
見る喫緊の課題について

学校の学び・教育活動面から見る喫緊の課題について

— 令和7年度 第4回 飯田市これからの学校のあり方審議会資料から —

本日の審議会で委員の皆様にご意見交換をお願いすること…

- ✓ 飯田市の現状として、小学校においては、19校中13校が小規模学校(文科省基準)となっている。
- ✓ 近年の動きとして、文部科学省も少人数での学びの環境を大切にしていこうとする動きがある。
- ✓ こうしたことを念頭に置きつつ、急激な少子化、家族の形の変化、地域コミュニティの変化といった学校教育を取り巻く環境の変化、国レベルでの教育のあり方や教員不足など学校教育そのものの変化を捉えた上で、「こどもまんなか＝児童生徒の学び」と「教育活動の充実＝学校運営」の2つの視点から、小規模教育の意義を確認しその位置づけについて意見交換をいただく。
- ✓ その上で、「児童生徒の学び」の観点、「学校運営」の観点から、小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態かについて意見交換をいただく。

本日の審議の目的

課題意識の高い学園や施設の安全面で課題がある学園のボトムアップ・対話方式での協議・検討を基本としながらも、学園内の学校のあり方についての相互理解を深めるための協議・検討を開始していただくよう働きかけを行う際の「学校の学び・教育活動面から見る喫緊の課題」を明確にし、検討を進める必要がある学園とその順番を定めることにつなげる。

前回(令和7年度第4回)審議会の振り返り

令和7年度 第4回 飯田市これからの学校のあり方審議会
令和8年3月25日(水)実施
グループワーク結果まとめ

グループ A

ポイント – 結果共有のための発表から

- 小規模であることの良さは十分に理解できた。また、課題があることもよくわかった。
- 教師のやりがい良さとなっている反面、やりがいだけでは続かないといったことが課題として出てきている。
- 家族のような雰囲気、あるいはこども一人一人の名前も顔もわかって、安心して過ごせるというような良さもある反面、課題の方にも挙がっていて、人間関係の固定化であったり、極端な表現でいうと、一人一人が浮き彫りになって逃げ場がないということになってしまう。
- 以上のように、良さも課題も両方あることから何がみえてくるかというと、児童生徒数と教職員数がキーワードとして挙がり、それが保護者・PTAへの負担にもつながっているということが出てきた。
- 具体的には一人あたりに掛かるお金の面やPTA活動の問題等が挙げられる。

第2次答申に向けた小規模教育の位置付けに関するグループワークの結果

令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ B**

ポイント – 結果共有のための発表から

- 小規模であることの強みと児童の学びの視点では、個別で目が行き届きやすいこと、自ら主体的に学び、様々な場面で活躍できる機会が多いことから責任感が身に付くという良さがあり、また、小規模のため学年を超えた活動が盛んに行うことができ、集団としての絆が生まれるという意見が出された。
- 課題面で捉えると、こどもたちが気を抜けない状況になってしまうこと、多様な考えに出会えないのではないかという意見が出された。また、同年代同学年の仲間との触れ合いが希薄になること、人間関係の固定化も起こってしまう。
- 教育活動や学校運営の視点では、児童生徒がやりたいことに寄り添うことができること、小回りが利くこと、一人一人に目が行きやすいことが出された。
- 課題としては、先生方への負担が大きいこと、P.T.Aへの負担もかかってくることが挙げられ、地域やP.T.Aの協力が必須であるということが課題の一つとして挙げられている。

グループ B	第1ラウンド	学校の規模が小規模であることの良さと課題を整理すると何が見えてくるか？
ご検討 いただくこと	①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください(自分の書きやすい向きで書いてください)。 ②各々から考え方を含めて発表し合い、同じような意見を線で囲んだり、多かった意見や皆が大切だと感じた意見、印象に残る意見に印を付けるなどして、メンバー全員で「良さ」と「課題」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。	
	良さ：小規模であることの強み 小規模だからこそ実現できていることやその良さは何か	課題：小規模であるが故の弱み 小規模であるが故に生じる難しさや課題は何か
児童の学びの視点 児童生徒にとって何が	学習環境が豊か 安定した居場所(先生・友達との関係性) <u>個別対応</u> 地域文化活動のネットワークが広がる 子どもに寄り添った学び 活動が盛ん 二学期が長く 責任感 学年を超えた交流 活動が盛ん 全員の参加が強い	子どもの社会の幅が小さい(同世代、先輩、後進) 多様な意見に出会えない 多様な考えに出会えない 多様な意見に角が立つことになりやすい (学校自己評価で)自分の考えを表現する力 追学の不安(保護者) 固定化 多様な学び 人間関係が広がりやすい 人間関係が広がりやすい 同世代 多様な考えに出会えない 多様な考えに出会えない 多様な考えに出会えない
教育活動・学校運営の視点 先生や学校にとって何が	環境、関係性 児童のやりたいことができる 自由進路学習でできる ICT活用がしやすい やりたい体験させたいこと できる 児童がやりたいことに 寄り添える	過剰な負担、負担が大きい 専科教員がいない、教員の業務量が多い 地域の協力がないと運営できない 保護者負担、(町内会)で支援 児童会、P.T.A負担 地域との協力が必須

第2次答申に向けた小規模教育の位置付けに関するグループワークの結果

令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会

グループワーク

グループC

ポイント

結果共有のための発表から

- 児童の学びの視点からの強みでは、キーワードはやはり個別、一人一人、ふるさと学習や体験的な学習が出てきた。そのキーワードから導かれる強みは、自律的な学び、その子らしい学び、個性的な学び等ができることが強みとしてある。
- 学校運営の視点では、小回りが利く、きめ細かな学習支援ができる、学校はチームになるというようなキーワードが出てきた。そのキーワードから導かれる強みは、個性や多様性に応じた柔軟な学習環境を整えることができるということ。また、小規模教育の強みの教育理念や教育方法、そういったようなことができるということが強みとして挙がってきた。
- 弱みの方では、人間関係の固定化、評価の固定化、リーダーの存在などが挙げられ、もっともっと成長できるのに、その成長が困難な状態になってしまうのではないかとことが挙げった。
- 学校運営については、やはり教員数が少なくなるため、教員の負担が重くなること、あるいは教員個人の力量への依存度が当然高くなってしまうことが挙げられた。また、地域の学校への協力が学校運営に欠かせないため、学校と地域の連携から協働への移行ができなければ、学校運営に支障をきたしてしまうという意見が出た。

グループ C		第1ラウンド	学校の規模が小規模であることの良さと課題を整理すると何が見えてくるか？
ご検討いただくこと		①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください(自分の書きやすい向きで書いてください)。②各々から考え方を含めて発表し合い、同じような意見を線で囲んだり、多かった意見や皆が大切だと感じた意見、印象に残る意見に印を付けるなどして、メンバー全員で「良さ」と「課題」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。	
児童の学びの視点 児童生徒にとってどうか	良さ：小規模であることの強み 小規模だからこそ実現できていることやその良さは何か	課題：小規模であるが故の弱み 小規模であるが故に生じる難しさや課題は何か	
	◦ 個別の対応、一人一人の活躍の機会(表現) ◦ ふるさと学習を基軸にして、魅力的な学び、地域に密着した ◦ 一人一人がリーダーになれる(発表) ◦ 異学年の学習活動(かかわり) ◦ 一人一人の<u>自律的な学び</u>、<u>自分らしい学び</u>、<u>個性的な学び</u> ◦ 体験的な学習(祭りなど地域の環境)	◦ 意図のかたまり ◦ 自己主張の強いリーダーの存在が協力的な活動ができない ◦ 人間関係の固定化、評価の固定化 ◦ ライバルが少なく切磋琢磨の機会が少なく成長が困難 ◦ 部活動等「自分たち」を伸ばす機会や場が少なく	
教育活動・学校運営の視点 先生や学校にとってどうか	◦ 小回りが利く、地域が協力的 ◦ 個別指導ができる(その細かな指導) ◦ 個性や多様性に応じた柔軟な学習環境 ◦ 学校がチームになりやすい ◦ 小規模教育と密着した<u>教育理念や教育方法</u>がある(制作の行事)	◦ 教員個人の力量への依存度が高い ◦ PTAなど将来を見据えた活動が必要 ◦ 教員の負担が重くなる(各校学年別の教材研究指導準備...) ◦ 教員同士の摩擦が少なくなる ◦ 教師が少ないので、特定の課題に組織的に対応することが困難な場合がある ◦ 地域の協力が必要 = 学校運営に 連携 ⇒ 協働	

学校の規模が小規模であることの良さと課題を整理すると何が見えてくるか？

～ 良さ：小規模であることの強み × 児童の学びの視点 ～

良さ：小規模であることの強み

小規模だからこそ実現できていることやその良さは何か

児童の学習環境が豊かになる

- 主体的に学ぶ環境を与えられやすい
- 他者に教えることで自身の学びをより深めることができる
- ふるさと学習を基軸とした魅力的な探究の学びができる
- 一人一人の自律的な学び、自分らしい学び、個性的な学びができる

機動性が高い、小回りがきく

- 小回りがきく
- 体験的な学習や校外学習を機動的に行える
- 異年齢の学習活動、体験的な学習、校外活動などを機動的に行うことができる
- 発言や実習・実技等の個の時間が十分に確保できる

地域の人たちとの交流の場が増える

- 地域の豊かな自然、伝統文化や地域の行事を教材に地域と密着したふるさと学習を展開しやすい
- 伝統文化や地域の行事を教材に地域と密着した学習がフットワーク良く展開しやすい

学校が安心できる居場所になる

- 児童一人一人が注目され、大切にされていると感じることができる
- 一人一人が認められ大切にされる

個に寄り添った個別の対応ができる

- 「立ち止まり」や「回り道」という理解や思考を誘うゆったりとした学びができる
- 担任が個別に支援できるため自由進度学習がやりやすい
- 学習面でも生活面でも細やかな指導、柔軟対応ができる
- 個々の思いや考えに寄り添った学びを実現しやすい
- 個別の対応ができる
- 個に寄り添ったきめ細かな対応ができる

人間関係の安定感

- 友達や先生との親密な人間関係が築ける
- 個々にお互いの顔も名前も知っている
- 教師との関わりが気軽にできる
- 児童の団結力、繋がりが強く、集団意識が強くなる
- 全校で一つのテーマについて取り組む学習ができる
- 学年を越えた交流・活動ができアットホームな環境が整えられる

児童一人一人に活躍の機会がある

- 授業等での発言の機会が多くなる
- 一人一人が活躍する機会を設けることができる
- 一人一人が活躍する機会があり、発表等のアウトプットの場が位置付けられる
- 一人一人が表現できる時間を多く持つことができる
- 意見や感想を発表できる機会が増える
- 授業中も発言など活躍できる機会が多い

責任感が生まれ、成長につながる

- 一人一人がリーダーとなり意見を発表することができる
- 発表やリーダーの経験が増え、活躍することで、成長につながる
- 様々な活動でリーダーを務める機会が増え、責任感・自信・やる気等が養われる
- 学校生活において個々の役割や責任が大きくなる
- 各種の係活動が体験でき、リーダーになる機会が多い
- 異年齢で関わる機会が多い

学校の規模が小規模であることの良さと課題を整理すると何が見えてくるか？

～ 良さ：小規模であることの強み × 教育活動・学校運営の視点 ～

良さ：小規模であることの強み

小規模だからこそ実現できていることやその良さは何か

学習環境面でゆとりがある

- 施設や教具等のゆとり(物理的余裕)がある
- 校庭や体育館、特別教室等を使用しやすい
- ICTの活用がしやすい
- 学ぶ環境(施設、教材教具など)が充実している

児童の「やりたい」を実現できる

- 児童の「やりたい」を実現できる
- 児童の「やりたいこと」ができる
- 児童のやりたい体験を実現できる
- 児童の「やりたい」に寄り添うことができる

保護者や地域と連携した教育活動ができる

- 保護者との連絡や調整、連携がしやすい
- 地域が協力的で、物理的距離も近いため地域との関わりを深めやすい
- 学校がチームになり地域性を生かしたカリキュラムマネジメントができる
- 地域の協力は得られやすく、探究的な学びが実施しやすい

豊かな学習環境を自由に構築できる

- 個性や多様性に応じた柔軟な学習環境を構築できる
- 小規模教育を強みとする教育理念や教育方法の実践が可能になる
- 児童の興味に合わせた学習ができる
- 「一人一人にあった学び」「自由進度学習」を展開しやすい
- 自由進度学習など個にあった学習に目が届きやすい
- 児童の実態に即した対応が可能
- 体験を伴った教育活動を組み立てやすい
- 児童の反応を迅速に捉えることができる

児童の情報を把握でき、個別対応が可能

- 個々の学習状況や心身の状態把握し学習指導や生徒指導に生かせる
- 一人一人の学習の進捗状況を正確に把握できるため個別対策・個別指導が行いやすい
- 学習内容の定着状況や学びの履歴を的確に把握でき、きめ細かな指導が可能になる
- 学習等で困っている児童に個別対応しやすい
- 児童の変化を見つけやすい
- 児童一人一人に目が届きやすい
- 児童一人一人を理解した上で、個に応じた指導、支援ができる

小回りが利き、柔軟対応ができる

- 小回りが利く
- 柔軟対応ができる
- フットワークが軽い
- 状況や必要に応じて素早く対応できる

児童との関係性が豊かになる

- 児童同士の繋がりがあり、ともに楽しむ活動が多くできる
- 全校で新しい試みに挑戦できる
- 他校との交流が進む
- 児童と深く関わるができる
- 児童との親密な人間関係が築ける
- 児童に向き合う時間がとれる
- 評価や諸表簿作製等の時間的ゆとりが生じる

教員としてのやりがいが増える

- 教員としてのやりがいが増える

学校の規模が小規模であることの良さと課題を整理すると何が見えてくるか？

～ 課題：小規模であるが故の弱み × 児童の学びの視点 ～

課題：小規模であるが故の弱み

小規模であるが故に生じる難しさや課題は何か

関係性が悪化した場合等の逃げ場がない

- 個々が浮き彫りになると同時に逃げ場がない
- トラブルがあっても離すことができない
- トラブルがあった時の関係性が難しい
- 逃げ場がなく、行き詰まると新たなスタートを切ることが難しい

関係性の固定化が生じる

- 人間関係に広がりがない
- 人間関係が固定化してしまう
- 限られた人間関係で固定化する
- 児童の人間関係が固定化する
- 評価が固定化する
- 児童の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- クラス替えもなく人間関係が固定化する

気を抜くことができない

- 先生にずっと見られているようで気を抜く時がない
- 注目されることが多く、心の休息を得られにくい

進学時の不安がある

- 進学等の際に大きな集団へ適応に困難が生じる可能性がある

大人数の前で発表する機会がない

- 大人数の前で発表する機会がない

社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい

- 望ましい集団活動(社会性やコミュニケーション能力を育てる)が展開しにくい
- コミュニケーション力が身につかない

協働的な学びを深める対応が必要

- 協働的な学びが組みづらい
- 特に自己主張が強い児童がいるとその児童の元で行動するようになり協働の学びができにくい
- 多様な意見に触れる機会が少ないため友達の見解を参考にしながら学習を深めていくことが難しい
- 多様な意見に触れる機会が少ないため、意見交流による深まりが難しい
- 多様な考え方に会いづらくなる
- 多様な学びが難しく、新しい情報が入ってこない
- 多角的な視点や異なる価値観に触れる機会が少ない
- 意見が偏りやすい
- 多様な考えに触れる機会が限られやすく考えを深める学び、協働の探究の場、他者との対話をどのように作るかが課題となる

児童だけの社会の規模が小さくなる

- 毎日ともに学ぶ同学年の仲間が少ない
- 同学年に個性が少なく発達に必要な信頼関係を築く機会を欠いてしまいやすい
- 同世代の多くの仲間の中で学ぶ経験ができない
- 憧れの存在、お手本となる先輩が少ない

指導や支援が強く児童の主体性・自主性を妨げてしまう

- 一人一人への手が入りやすいため、教職員が手を出しすぎてしまう
- 教職員の指導や支援が強すぎて児童の自主性を妨げてしまうことがある
- 大人の存在がよりどころになりすぎてしまう
- 馴れ合いすぎてしまう

切磋琢磨する環境での成長が困難

- 様々な活動でリーダーを務める機会が増えるが苦手な児童には負担になる
- PTAが大変だと感じる
- 一家庭当たりの負担が増える

団体競技や大規模な行事が実施できない

- 団体競技ができない
- 行事の規模が小さくなる
- 委員会やクラブの種類や所属人数が少ない
- 部活動等「自分の好き」を伸ばす機会や場の少なさ
- 集団活動が限られてしまう
- 団体競技やクラブ活動でできることが限られてしまう

児童・保護者の負担が増える

- 協働的な学びの実現や切磋琢磨する環境での成長等が困難な状況がある
- 切磋琢磨する環境がなく成長が困難になる
- 今の自分に満足してしまい井の中の蛙になってしまう

学校の規模が小規模であることの良さと課題を整理すると何が見えてくるか？

～ 課題：小規模であるが故の弱み × 教育活動・学校運営の視点 ～

課題：小規模であるが故の弱み

小規模であるが故に生じる難しさや課題は何か

教員同士の切磋琢磨ができなくなる

- 校内研修(若手もベテランも)が充分にできない
- 教員同士の切磋琢磨する環境が作りにくい
- 教職員同士の刺激が少ない

教職員の負担が増加する

- 教員の負担が重たくなる
- 個々の教職員が負担する業務が多くなる
- 職員数が少ないため仕事量が多く感じられる
- 校務の多重化により、負担が大きくなる
- 先生の数が少なく一人当たりの業務量が多くなる
- 配置される教職員数が不十分
- 教員個人の力量への依存度が高い
- 教員に特別な指導技術が求められる
- 複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備、校務負担、行事負担等の教員の負担が重たい

専科教員が配置されない

- 専科教員が配置されない
- 専科教員がいないことで、教員の負担が増える

学校を取り巻くさまざまな課題に組織的に対応することが困難な場合がある

- 学校を取り巻くさまざまな課題に組織的に対応することが困難な場合がある

協働的な学びの構築が難しく、児童の「やりたい」を実現できないことがある

- 協働的な学びの場ができていくなり全体として教育効果が下がる
- 児童の「やりたい」を実現できないことがある
- 協働学習が組みづらくなる
- 児童数が減少することで校外活動の負担が大きくなり、活動内容を縮減せざるを得ない
- 児童だけで課題解決をするには十分な環境が整わない
- 課題に対する解決思考を乏しくさせてしまう

クラス替えができない

- クラス替えやクラスマッチなどによる校内の活性化が難しい
- クラス替えができない

過保護になりやすい

- 過保護になりすぎる
- 過保護(失敗させない)になりがち

児童会やPTA活動が低調になる

- 児童会活動が低調になる
- 児童会の活動が縮小してしまう
- 人数が減少していくことを見越した児童会活動の構築が求められる
- PTA活動が低調になる
- PTAの活動が縮小してしまう
- 人数が減少していくことを見越したPTA活動の構築が求められる

保護者の負担が増加する

- 保護者の金銭的負担が増える
- 社会見学等の費用など保護者負担が増加する
- 保護者のメンバーが固定化され負担が大きくなる
- 保護者の負担が増える
- PTAの負担が多くなる
- PTA活動における日常活動への負担感が強い

地域と学校の連携から協働へ

- 地域の協力がないと学校の環境整備、清掃などが行き届かない
- 学校運営に地域の協力が必要になる
- 学校環境整備に地域の協力が必要になる

学校の規模が小規模であることの良さと課題を整理すると何が見えてくるか？

良さ：小規模であることの強み

小規模だからこそ実現できていることやその良さは何か

- 個に寄り添った個別の対応ができる
- 人間関係の安定感
- 機動性が高い、小回りがきく
- 学校が安心できる居場所になる
- 地域の人たちとの交流の場が増える
- 責任感が生まれ、成長につながる
- 児童の学習環境が豊かになる
- 児童一人一人に活躍の機会がある

課題：小規模であるが故の弱み

小規模であるが故に生じる難しさや課題は何か

- 関係性が悪化した場合等の逃げ場がない
- 関係性の固定化が生じる
- 気を抜くことができない
- 進学時の不安がある
- 大人数の前で発表する機会がない
- 児童だけの社会の規模が小さくなる
- 協働的な学びを深める対応が必要
- 社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい
- 児童・保護者の負担が増える
- 切磋琢磨する環境での成長が困難
- 団体競技や大規模な行事が実施できない
- 指導や支援が強く児童の主体性・自主性を妨げてしまう

児童の学びの視点
児童生徒にとってどうか

教育活動・学校運営の視点
先生や学校にとってどうか

- 児童の情報を把握でき、個別対応が可能
- 児童の「やりたい」を実現できる
- 小回りが利き、柔軟対応ができる
- 児童との関係性が豊かになる
- 豊かな学習環境を自由に構築できる
- 保護者や地域と連携した教育活動ができる
- 学習環境面でゆとりがある
- 教員としてのやりがいが増える

- 学校を取り巻くさまざまな課題に組織的に対応することが困難な場合がある
- 教員同士の切磋琢磨ができなくなる
- 専科教員が配置されない
- クラス替えができない
- 過保護になりやすい
- 協働的な学びの構築が難しく、児童の「やりたい」を実現できないことがある
- 教職員の負担が増加する
- 保護者の負担が増加する
- 児童会やPTA活動が低調になる
- 地域と学校の連携から協働へ

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態に関するグループワークの結果

令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ A**

グループ A

第2ラウンド

小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？

ご検討
いただくこと

①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください。
②各々から考え方を含めて発表し合い、第1ラウンドと同様の方法でメンバー全員で、「小規模の良さが得られなくなる状態」又は「課題を補いきれなくなる状態」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態

② 借金

① 生徒数の増加で校舎が狭くなる

保母員不足

複式学級が多くなる

④ 校舎の老朽化による修繕費の増加

そのように考えた理由

児童の学びの観点から
児童や生徒はどのような状態になるか

① 対話的な学びが難しくなる
② 先生との関係が個人間の関係になる
③ 個性の発露が難しく、他にはない個性がなくなる
④ 個性の発露が難しくなる
⑤ 集団生活で生活習慣や生活態度の面で問題が顕著になる
⑥ 学校イベントなどの思い出がなくなる
⑦ 同世代とのコミュニケーション、遊びや雑談の思い出がなくなる

教育活動・学校運営の観点から
先生や学校、授業はどのような状態になるか

① 児童生活の制限、社会性の学習が難しくなる
② 進級が制限され、学校に楽しみがなくなる
③ お金が少なくなり、授業料が払えない
④ 他校と交流する機会がなくなる
⑤ 校舎の老朽化による修繕費の増加
⑥ 校舎の老朽化による修繕費の増加
⑦ 校舎の老朽化による修繕費の増加

ポイント

結果共有のための発表から

- 小規模の良さはあるが、少人数であれば少ないほどいいのかということではなく、その限界はどこかという話し合いになり、一つは複式学級がある状態のことが出てきた。
- 小学校では19校のうち13校が小規模ということ踏まえると、学校生活において望ましい集団活動ができるのかということ、要するに、望ましい集団活動が学級活動、学級生活、学校生活においてできているのかということが話題になった。

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態に関するグループワークの結果

令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ B**

ポイント

結果共有のための発表から

- 小規模な教育の良さが得られなくなる状態については、学校は児童生徒の社会生活があり、社会性を育む場でもあることから、児童生徒の社会性が育まれなくなる状態ではないかという意見が出された。
- 理由としては、児童の学びの観点からは、同年の仲間、さらに同性の仲間がいないことが精神の発達の段階において、集団が築けないバランスの悪さによって社会性が育まれなくなる状態になってしまうのではないかと考えた。また、学びの範囲が制約されてしまうことも影響があるのではないかと考えた。
- 教育活動や学校運営の観点では、PTA組織や地域で支えていただけた方々の協力体制の維持が困難になってしまうのではないかと考えた。地域の中では高齢化や人数の減少が危惧されるため、こどもの学びの体制を支えることが難しくなってしまうのではないかと考えた。

グループ B

第2ラウンド

小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？

ご検討
いただくこと

①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください。
②各々から考え方を含めて発表し合い、第1ラウンドと同様の方法でメンバー全員で、「小規模の良さが得られなくなる状態」又は「課題を補いきれなくなる状態」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態

①児童数の極小化になる状態

②保護者負担が大きくなる状態
(地域)

①子どもの社会性が育まれなくなる状態
(毎年1人だけ/学年内で同性の子が偏り)
極端な

社会性が育まれなくなる状態

そのように考えた理由

児童の学びの観点から
児童や生徒はどのような状態になるか

①1人での授業になる場合、主体的な学びが難しくなる

②子どもたちの活動内容が少なくなる

③学校の集団で学ぶ ← 同年の仲間がいないこと
(課題に対する解決策を学ぶ - 生き残る力が育まれにくい)

①1人での授業になる場合、主体的な学びが難しくなる

②子どもたちの活動内容が少なくなる

③地域の支える人の高齢化、人数減、協力体制の維持が難しくなる

①1人での授業になる場合、主体的な学びが難しくなる

②子どもたちの活動内容が少なくなる

③協働学習の仕組みづくり
子どもたちの主体的な学びの環境を整えていく

教育活動・学校運営の観点から
先生や学校、授業はどのような状態になるか

①1人での授業になる場合、主体的な学びが難しくなる

②地域の支える人の高齢化、人数減、協力体制の維持が難しくなる

③協働学習の仕組みづくり
子どもたちの主体的な学びの環境を整えていく

①1人での授業になる場合、主体的な学びが難しくなる

②子どもたちの活動内容が少なくなる

③協働学習の仕組みづくり
子どもたちの主体的な学びの環境を整えていく

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態に関するグループワークの結果

令和7年度 第4回飯田市これからの学校のあり方審議会 グループワーク **グループ C**

ポイント – 結果共有のための発表から

- 児童の観点において、さまざまな機会がなくなったり、競争心がなくなるなど、徐々に活動量が限定されていってしまうイメージで、なおかつこどもの場合には学習の場だけではなく、教室や学校というものは生活の場でもあるため、その生活の場の中で身につけられるものが育ちにくいという場合には、限度としてあるのではないかと考えた。
- 学校運営の視点から考えると、地域と学校の関係性がとても大事になってくるため、その地域に元気がなくなっていく時には、限度ではないかというような意見があった。
- 以上から、一つは地域からの協力がなくなった場合、いわゆる学校と地域の連携や協働の継続性の担保ができなくなってしまうこと。
- もう一つは、学校側でいろいろ工夫してくれてはいるが、その学びの環境がこれ以上整えられない場合には、限度ではないかという状況の2つが挙げられた。

グループ C	第2ラウンド	小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？
ご検討 いただくこと	①事前に個人ワークでお考えいただいたご意見をそれぞれのラインボックス内に書いてください。 ②各々から考え方を含めて発表し合い、第1ラウンドと同様の方法でメンバー全員で、「小規模の良さが得られなくなる状態」又は「課題を補いきれなくなる状態」を共有し、グループとしての問いに対する回答をまとめてください。	

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態

① 地域からの協力がなくなった場合 (学校と地域の連携と協働の継続性が担保されない) > 児童生徒数より多い地域の人口減 (学年で一人) (極小人数にすぎない) 地域性はある。多様な学びの環境が整えられない場合 (最低でも3人)

そのように考えた理由

児童の学びの観点から 児童や生徒はどのような状態になるか

- ・ 地域との関係性がなくなる
- ・ 話し合いなどの機会がなくなる
- ・ 競争心がなくなる
- ・ 活動量の限定 (体験的な学習、校外活動、異年齢学習)

学習の場 ↔ 生活の場もある

教育活動・学校運営の観点から 先生や学校、授業はどのような状態になるか

- ・ 地域からの補助 (金銭面) がなくなる
- ・ 地域に支えられなくなった場合
- ・ 人口減少、歯止めがかかると、学習定数が見込めない場合

・ 地域に学習する人が存在。
・ 地域からの視点で取り組む。

小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？

小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態

① 複式学級になる(既になっている)状態

- ・複式学級がある状態
- ・複式学級が多くなってしまう
- ・複式学級が複数ある状態
- ・複式学級となる

② 児童数が極少になる状態

- ・児童数の極端な減少(2人以下)
- ・学年に児童が一人の状態
- ・学年在籍児童数が少なくなりすぎてしまう状態
- ・児童数、教員数が減少してしまう

③ 学校運営が立ち行かない状態

- ・学校がマネジメントの工夫に限界を感じた場合
- ・学校が多様な学びの環境を整えられないと判断した場合
- ・地域からの協力が得られず、学校運営が立ちゆかなくなる状態

- 出された意見を大きく分類すると、
 - ① 複式学級になる状態
 - ② 児童数が極少になる状態
 - ③ (学校から見て)学校運営が立ち行かない状態 に3分類ができる。
 - なお、委員のご意見やグループワークの中では…
 - ✓ 児童、保護者、学校の負担が増大する状態
 - ✓ 社会性や主体性を育むことが難しい状態
 - ✓ 多様な学びの環境が整えられない状態
- といった意見もあったが、これらは「結果」と捉え、「原因」と考えられる上記①～③にまとめた。

小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？

－ 複式学級になる（既になっている）状態と考えた理由 －

児童の学びの観点から 児童や生徒はどのような状態になるか

○社会性を育む機会が損なわれる

- ・協働的な活動や解決思考が乏しくなり生きる力が育めない
- ・集団の一員として諸課題を解決していく力がつかない
- ・集団活動ができない状態
- ・同年の仲間がおらず集団による学びが確保できない
- ・信頼関係を構築する経験ができない

○主体性を育む機会が損なわれる

- ・学級活動、児童会や学校行事等における主体性が育たない
- ・協働の学びが組みづらく、児童の主体性を育むことが難しくなる
- ・個々の学習が受け身になる

○学習環境面での難しさ

- ・主体的に学ぶ力、個の理解力がある程度身につけていないと複式学級での学びは難しい
- ・学びの範囲が制約される
- ・対話的な学びに欠ける
- ・ペアやグループ学習での対話の広がりが少なくなる
- ・自校だけでは切磋琢磨する環境が整わない
- ・「好き」を伸ばす機会や場、支援者や伴奏者がいない状態

○関係性の構築に難しさが生じる

- ・個々への注目度が高くなり、他に頼ることができず、疲れる
- ・学年が上がるほど、上の学年と下の学年の圧迫感・窮屈感が生じる
- ・男女のバランスがとれない
- ・先生との関係性が個人の関係になる

○負担が増えることで制限が加わる

- ・経済的負担が重たくなり、教育活動が限定される
- ・保護者の負担が大きくなり、活動内容や校外学習の範囲や機会が狭くなる

○人間関係や評価が固定化する

教育活動・学校運営の観点から 先生や学校、授業はどのような状態になるか

○教職員数が少なく、柔軟な対応ができない

○教職員数が少なく、課題に対して組織的な対応ができない

○学習指導の進め方が課題になる

○学校が多様な学びの環境を整えられない

○活動が制限される

- ・児童会活動等が限定され社会性が育たない
- ・遊びが限定されるため学校に楽しみがない
- ・やってみたいと思う活動ができない

○保護者の負担が重たくなる

- ・保護者の負担が増大する
- ・校外活動、宿泊行事等の経費負担が重たくなる
- ・地域の協力体制が維持できない

小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？

－ 児童数が極少になる状態と考えた理由 －

児童の学びの観点から 児童や生徒はどのような状態になるか

- 社会性を育む機会が損なわれる
 - ・協働的な活動や解決思考が乏しくなり生きる力が育めない
 - ・集団の一員として諸課題を解決していく力がない
 - ・集団活動ができない状態
 - ・同年の仲間がおらず集団による学びが確保できない
 - ・信頼関係を構築する経験ができない
- 学習環境面での難しさ
 - ・考えを共有したり、相談したりする相手がおらず学び合いが成立しない
 - ・仲間との学びやグループ活動ができない
 - ・仲間との学びや遊びの幅がなくなる
 - ・話し合いをする機会がない
 - ・同世代のコミュニケーションが低調になる
 - ・課題に対する協働的な活動や解決思考が乏しくなり生きる力が育めない
- 主体性を育む機会が損なわれる
 - ・学級活動、児童会や学校行事等における主体性が育たない
 - ・協働の学びが組みづらく、児童の主体性を育むことが難しくなる
 - ・個々の学習が受け身になる
- 関係性の構築に難しさが生じる
 - ・対話的な学びが広がらず、児童と先生の一対一の関係性になってしまう
- 競争心が少ない

教育活動・学校運営の観点から 先生や学校、授業はどのような状態になるか

- 先生の負担が大きくなる
- 保護者の負担が重たくなる
 - ・保護者の負担が増大する
 - ・校外活動、宿泊行事等の経費負担が重たくなる
 - ・地域の協力体制が維持できない
- 多様性が失われる
- 活動が制限される
 - ・経済的負担が重たくなり、教育活動が限定される
 - ・保護者の負担が大きくなり、活動内容や校外学習の範囲や機会が狭くなる
 - ・児童会活動等が限定され社会性が育たない
 - ・遊びが限定されるため学校に楽しみがない
 - ・PTA活動が低調になる
- 児童会活動が困難になる

小規模の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態か？

－ 学校運営が立ち行かない状態と考えた理由 －

児童の学びの観点から 児童や生徒はどのような状態になるか

- 多様な学びの環境が確保できない
- 学校運営が回らず、児童の学びに影響が出る

教育活動・学校運営の観点から 先生や学校、授業はどのような状態になるか

- 多様な学びの環境が確保できない
- 地域からの補助等がなくなり、地域で子育てができなくなる
- 地域に元気がなく、地域と学校の連携や協働ができなくなる
- 地域や保護者の負担が大きくなる状態
- 地域との連携が難しくなる
- PTA活動が低調になる

論点2ーポイント② 学び・教育活動面からの課題について

ー 学校における学び・教育活動面から見る喫緊の課題 ー

ポイント② | 共有する課題の明確化(協議・検討開始のポイント)



学校の学び・教育活動面から見る喫緊の課題

- 学园内小学校において、既に複式学級が存在している 若しくは 近い時期(令和8年度当初から見て今後5年以内)に複式学級になる可能性がある状態にある学園については、学园内の学校のあり方についての相互理解を深めるための協議・検討を開始していただくよう働きかけを行う。

論点2 課題を共有するための課題の明確化

ポイント② 共有する課題の明確化(協議・検討開始のポイント)

学校の施設面から見る喫緊の課題

学校の施設面から見る喫緊の課題

本日の審議会で委員の皆様にご意見交換をお願いすること…

- ✓ 前回審議会では、学園内の学校のあり方についての相互理解を深めるための協議・検討を開始していただく働きかけを行う際の「学び・教育活動面からの課題」を明確にするため、こどもまんなか＝児童生徒の学びと教育活動の充実＝学校運営の2つの視点から、小規模教育の意義を確認した上で、小規模教育の良さが得られなくなる状態 又は 課題を補いきれなくなる状態とはどのような状態かについて意見交換をいただいた。
- ✓ ここからは、学園内の学校のあり方についての相互理解を深めるための協議・検討を開始していただくよう働きかけを行う際のもう一つの課題である「施設面での課題」について、その考え方を共有いただく。
- ✓ その上で、前回審議会で明確化した「学び・教育活動面からの課題」と本日共有する「施設面での課題」の観点から、協議・検討を開始する学園及び協議検討の順番について確認をいただく。

本日も審議いただく2つ目の論点へ

- 協議・検討の順番を踏まえつつ、学園地域における標準的な協議・検討期間やそれに基づく検討時期を定める。
- 具体的な論点① 学園地域における協議・検討期間及び再編する場合の準備期間の標準形
- 具体的な論点② 論点2の協議・検討の順番及び標準形を踏まえた学園毎の検討時期のイメージ

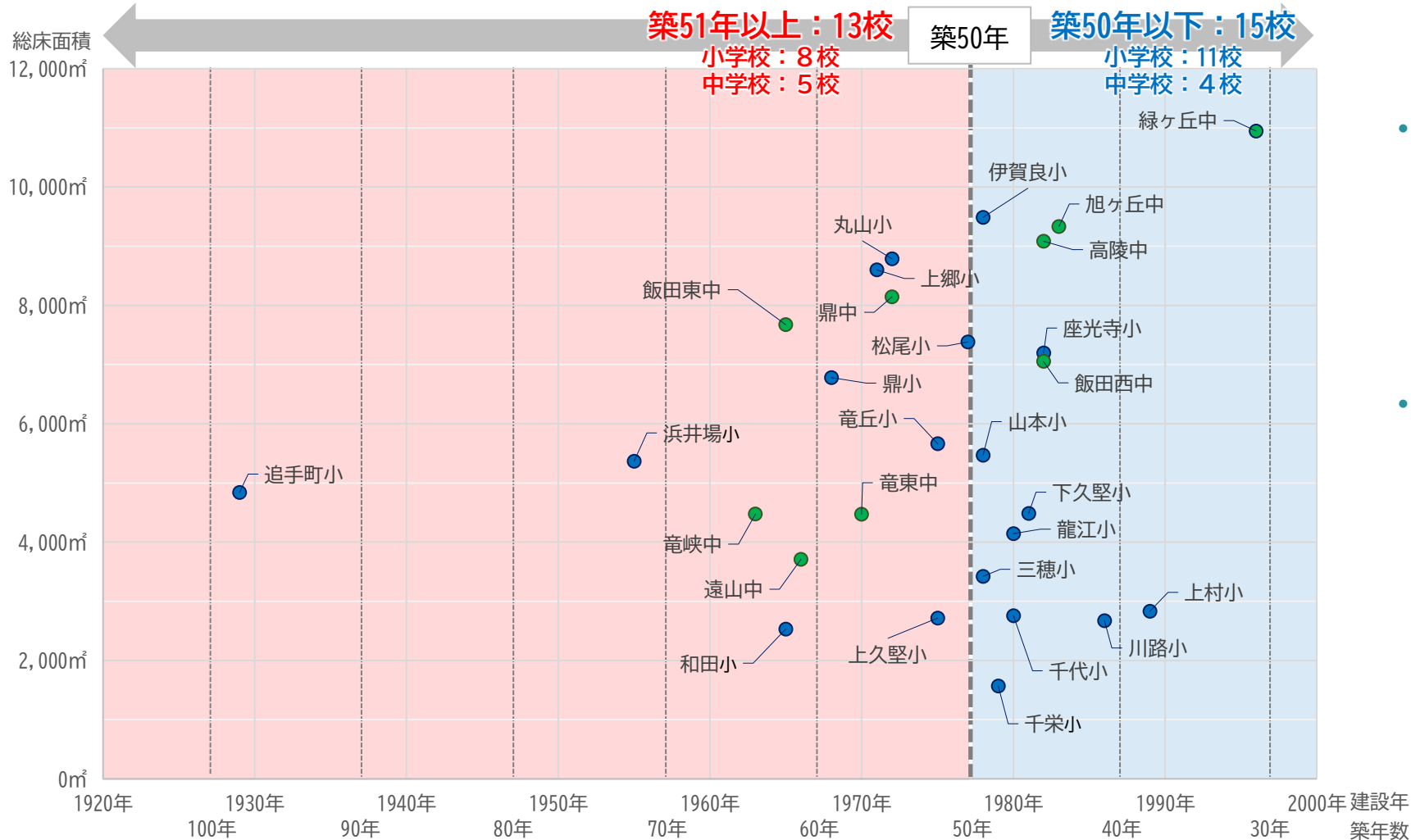
論点2－ポイント② 施設面での課題について

－ 学校施設の現状 －

確認

1

学校施設の老朽化状況



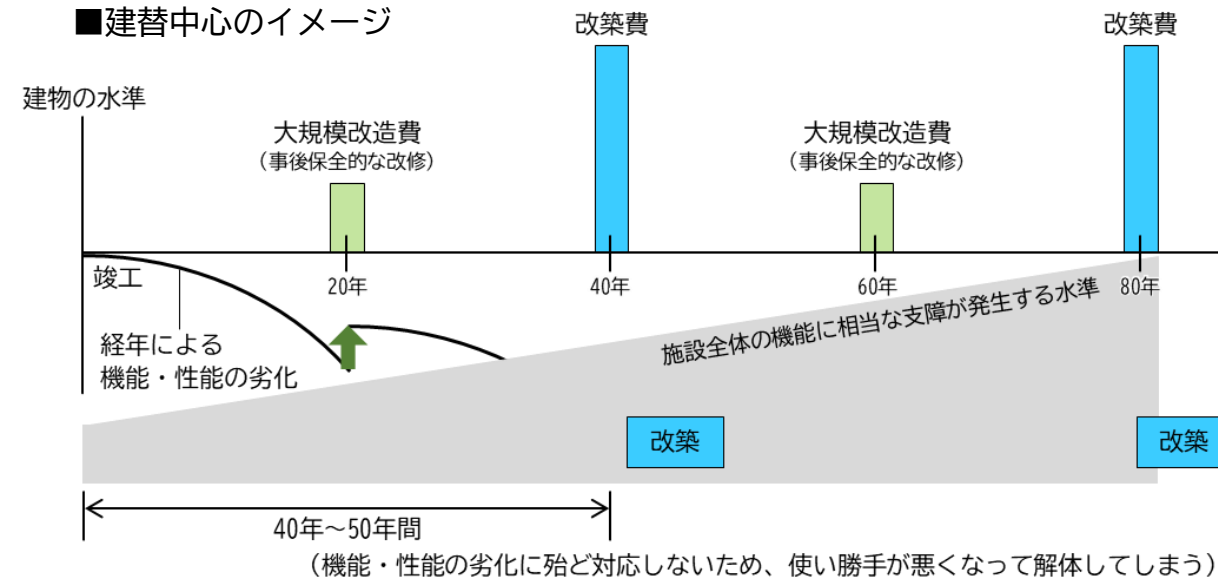
- 対象施設の建築年をみると、令和8年度末現在で、築51年以上が13校、築50～40年が13校、築39～30年2校となっており、全ての建物が築30年を越えている。
- 旧耐震基準(昭和56年以前)により建築された建物もあるが、当市においては、平成24年までに、全ての学校施設について耐震診断及び診断結果に基づく必要な耐震改修を完了しているため、老朽化対策が課題となっている。

論点2－ポイント② 施設面での課題について

－ 長寿命化の方針 －

確認 2 施設の長寿命化とはどのような考え方か？

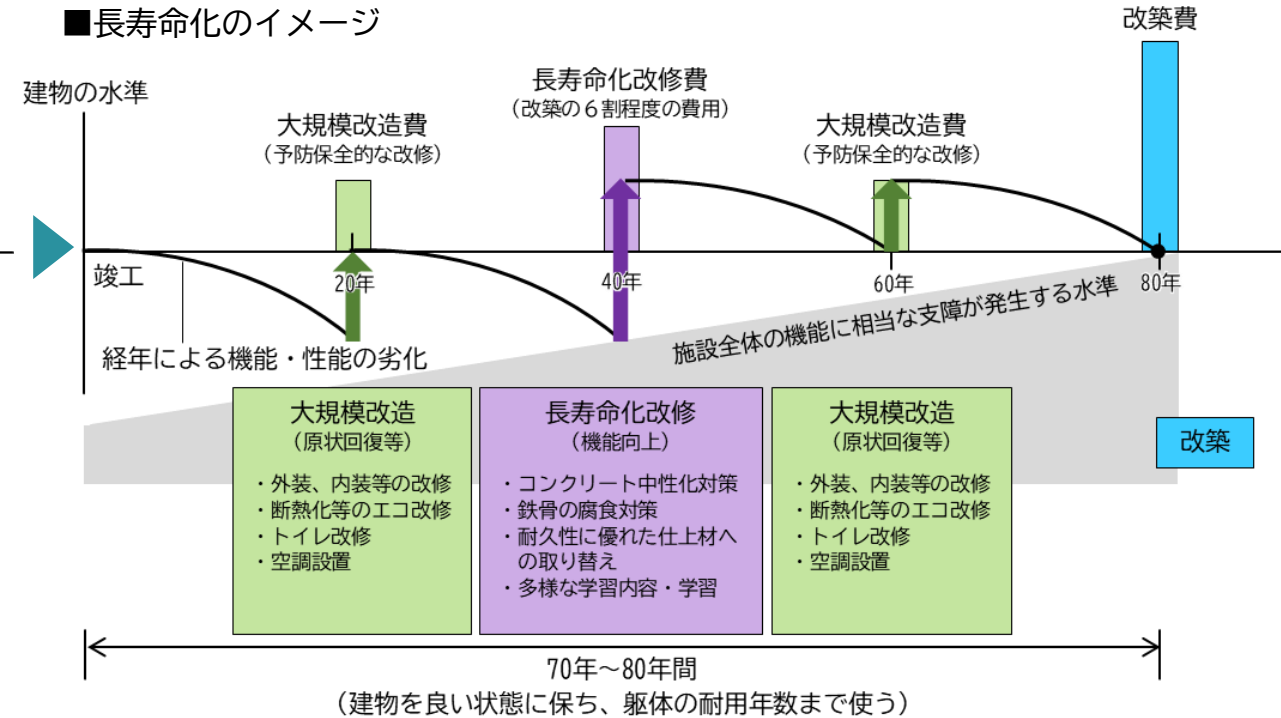
■建替中心のイメージ



- 約20年で経年による機能・性能の劣化した部分を事後保全するために大規模改造を実施
- 約40年で施設全体の機能に相当な支障が発生する水準になった段階で改築を実施

→ 約80年のサイクルの中で2回の改築コストが必要

■長寿命化のイメージ



- 約20年で経年による機能・性能の劣化した部分を原状回復するための予防保全を含めた大規模改造を実施
- 約40年で改築に代わる長寿命化改修を実施し、約80年で改築

→ 約80年のサイクルの中でトータルコストを低減

論点2－ポイント② 施設面での課題について

－ 長寿命化の方針 －

確認
3

学校施設に関する長寿命化の考え方

飯田市教育委員会施設等総合管理計画(飯田市/飯田市教育委員会事務局 策定:令和3年3月/改定:令和8年5月)

➡ 「第2章 学校施設」「2-3 目指すべき姿を実現するための施設整備方針等」

1 予防保全型の改修と長寿命化型改修

老朽化による劣化・破損等の不具合が生じた後に修繕等を行う事後保全型の施設管理方法から、定期的な劣化状況調査の結果に基づく、計画的な改修を実施する予防保全型の施設管理方法に転換を図ります。(略)

(2) 長寿命化型改修の実施

長寿命化改良工事の効果が高いとされる築50年以下の学校において、築60年までの間にコンクリートの中性化等を防止する改修を実施することで構造躯体の強度低下を防ぎ、施設を長期に渡って使い続けるようにします。

また、同時に全面的な改修工事を実施することで、教育環境を現在の学校施設に求められている水準に引き上げます。

▶ 建築後60年を超えた施設は、改築する必要があることを意味している。

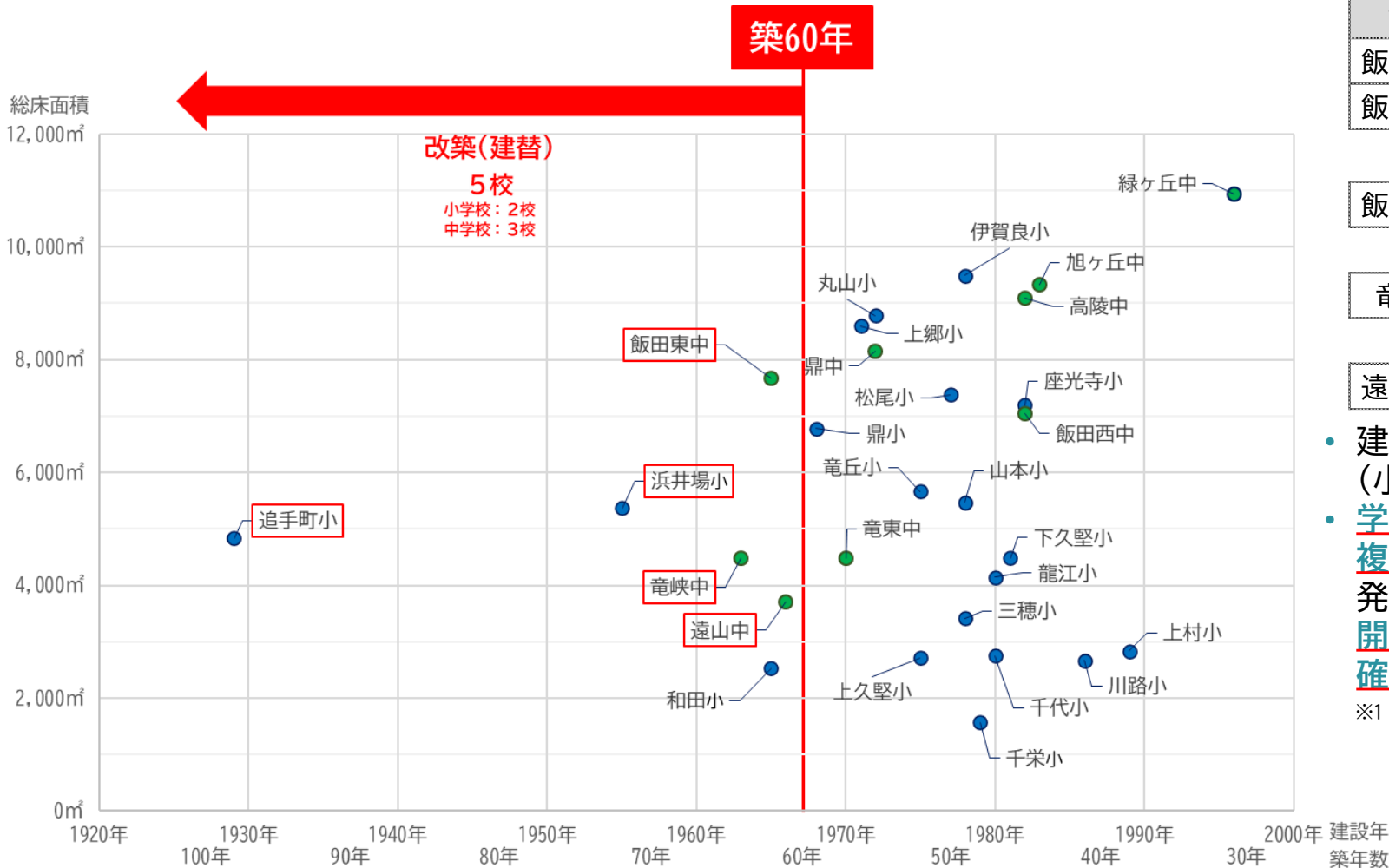
論点2－ポイント② 施設面での課題について

－ 長寿命化の方針から見る学校施設 －

確認

4

建築後60年を超える学校施設の存在について



学園名	学校名	建設年 西暦(和暦)	面積 (㎡)	築年数 (R8年度末時点)
飯田東学園	追手町小学校	1929 (S4)	4,837	98
飯田東学園	浜井場小学校	1955 (S30)	5,366	72

飯田東学園	飯田東中学校	1965 (S40)	7,674	62
-------	--------	------------	-------	----

竜峡学園	竜峡中学校	1963 (S38)	4,475	64
------	-------	------------	-------	----

遠山郷学園	遠山中学校	1966 (S41)	3,708	61
-------	-------	------------	-------	----

- 建築後60年を超え、改築が想定される学校施設は、5校(小学校2校、中学校3校)^{※1}である。
- 学園内の複数の学校が、建築後60年を超えている場合、複数回に及ぶ大規模な地震(本震後の大規模な余震等)が発生した際に、学園内での分散登校など、学校の即時再開(被災後でも可能な限り早期に児童生徒の学びの場を確保すること)を保障しきれない可能性がある。

※1 和田小学校に関しては、令和9年4月の遠山小学校へ再編を予定しているため対象から外している。

➡ 学校の施設面から見る
喫緊の課題

論点2－ポイント② 施設面での課題について

－ 学校の施設面から見る喫緊の課題 －

ポイント②

共有する課題の明確化(協議・検討開始のポイント)



学校の学び・教育活動面から見る喫緊の課題

- ・学園内小学校において、既に複式学級が存在している 若しくは 近い時期(令和8年度当初から見て今後5年以内)に複式学級になる可能性がある状態にある学園については、学園内の学校のあり方についての相互理解を深めるための協議・検討を開始していただくよう働きかけを行う。



学校の施設面から見る喫緊の課題

- ・教室棟等の学校における主要施設において、長寿命化改修に適さず改築(建替)の対象となる建築後60年を超える施設を有する学校が学園内に複数存在する学園については、学園内の学校のあり方についての相互理解を深めるための協議・検討を開始していただくよう働きかけを行う。

論点2 課題を共有するための課題の明確化

ポイント③

協議・検討を開始する学園

ポイント④

協議・検討の順番

論点2－ポイント③ 協議・検討を開始する学園

－「学校の学び・教育活動面から見る喫緊の課題」の視点で－

確認

1

共有する課題(協議・検討開始のポイント)

学校の学び・教育活動面 から見る喫緊の課題

- 学园内小学校において、既に複式学級が存在している 若しくは 近い時期(令和8年度当初から見て今後5年以内) に複式学級になる可能性がある状態にある学園については、学园内の学校のあり方についての相互理解を深めるための協議・検討を開始していただくよう働きかけを行う。

「学校の学び・教育活動面から見る喫緊の課題の視点」から
検討を開始の働きかけを行う学園の抽出

飯田東学園

追手町小学校 対象外
浜井場小学校 対象外

対象外

※両校とも単級ではあるが複式になる可能性は低い。

飯田西学園

丸山小学校 対象外

対象外

※当面各学年2～3学級を維持できる見通し

緑ヶ丘学園

松尾小学校 対象外
下久堅小学校 対象外
竜丘小学校 対象外

対象外

※下久堅小は単級ではあるが複式になる可能性は低い。

竜東学園

上久堅小学校 対象(R11)
千代小学校 対象(既に)
千栄小学校 対象(既に)
龍江小学校(一部) 対象外

対象 → 地域における検討開始

竜峡学園

龍江小学校 対象外
川路小学校 対象外
三穂小学校 対象(R13)

対象

旭ヶ丘学園

山本小学校 対象外
伊賀良小学校 対象外

対象外

※山本では単級になるものの複式になる可能性は低い。

鼎学園

鼎小学校 対象外

対象外

※当面各学年3～4学級を維持できる見通し

高陵学園

座光寺小学校 対象外
上郷小学校 対象外

対象外

※座光寺小では、単級となるが複式になる可能性は低い。

遠山郷学園

上村小学校 対象(既に)
和田小学校 対象(既に)

対象 → 令和9年4月
完全再編

論点2－ポイント③ 協議・検討を開始する学園

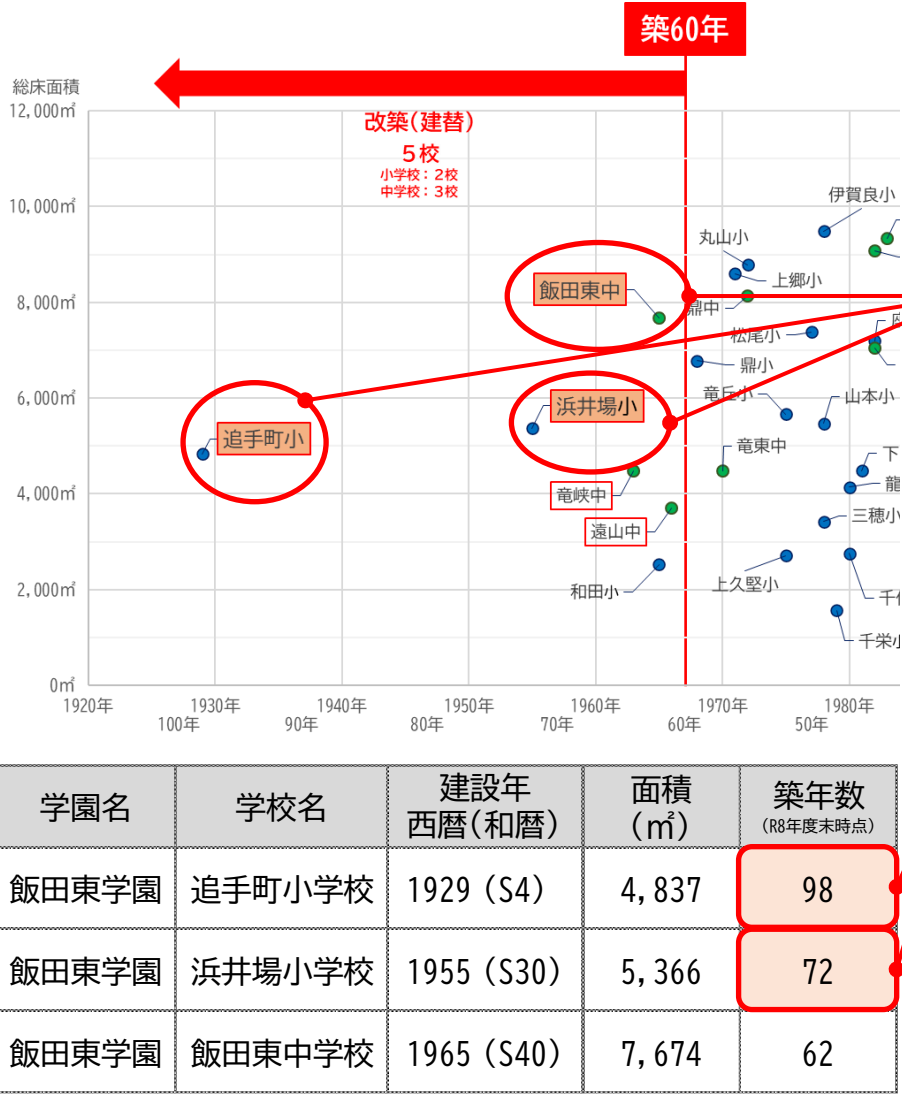
－「学校の施設面から見る喫緊の課題」の視点で－

確認
2

共有する課題(協議・検討開始のポイント)

学校の施設面から見る 喫緊の課題

- 教室棟等の学校における主要施設において、長寿命化改修に適さず改築(建替)の対象となる建築後60年を超える施設を有する学校が学園内に複数存在する学園については、学園内の学校のあり方についての相互理解を深めるための協議・検討を開始していただくよう働きかけを行う。



- 飯田東学園においては、**学園内の全ての小中学校の主要施設(教室棟等)が築60年を超えている。**
- 追手町小学校と浜井場小学校は、60年を大きく超えており、学園内での分散登校など、**学校の即時再開(被災後でも可能な限り早期に児童生徒の学びの場を確保すること)を保障しきれない可能性がある。**

論点２－ポイント④ 協議・検討の順番

－ 課題の緊急度(時間的視点を含め)の視点から見る協議・検討を開始する順番 －

学び・教育活動面 から見る課題

- ハード面での対応を要する場合には、課題間での調整が必要

対象学園

順番付けの
理由

遠山郷学園

既に再編に向け取組中
令和9年4月完全再編

竜東学園

既に、4校中2校で複式
学級となっているだけで
なく、2つの学年で児童
数が1人となっている。

竜峡学園

三穂小で、令和13年度入
学の児童から複式学級と
なる可能性がある。

緊急度



緊急度



施設面 から見る課題

- 飯田市教育委員会施設等総合管理計画に定める長寿命化改修との関係性も考慮する必要がある。
- 市の財政状況を踏まえた検討を要する。

対象学園

順番付けの
理由

飯田東学園

追手町小では、令和10年
度に建築100年を迎える。
教育委員会施設等総合管
理計画期間中に一定の目
途を付けるべき施設